



2大会連続 銀

体操男子 団体



男子団体総合で銀メダルを獲得した(左から)田中佑典、田中和仁、内村航平、加藤凌平、ノースグリンニツジ・アリーナ



日本が抗議 得点見直し

ロンドン五輪第4日の30日、8チームによる体操の男子団体総合決勝で、一度は4位と結果が出た日本は最終種目のあん馬で内村航平(コナミ)の得点に対する抗議が認められ、見直された採点で0.7点上がり、合計271.952点で2大会連続の銀メダルを獲得した。

位の米国は5位だった。日本は最初のつり輪で好スタートを切ったが、2種目目の跳馬で山室光史(コナミ)が着地に失敗して負傷し、中国に逆転を許した。あん馬では山室の代わりに演技した田中和仁(徳洲会)が落下し、内村も降り技で失敗したが、2004年アテネ五輪金メダルから3大会連続の表彰台を確保した。

Dスコア変更

【ロンドン共同】国際体操連盟(FIG)は30日、ロンドン五輪体操男子団体総合決勝で内村航平(コナミ)が演技したあん馬の技の難度を示すDスコア(演技価値点)の採点を見直し、Eスコア(実施点)との合計得点を当初の13.466点から14.166点に変更したと発表した。

悔しい「銀」

立花泰則監督の話 非常に悔しい銀メダル。山室は(跳馬で)本当にまねなミスが出た。中国の底力は認めざるを得ない。日本は心の成長を含めて、選手強化をしないといけない。